

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 石川県金沢市立西南部小学校)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8063
石川県金沢市八日市出町304番地

E-mail seinanbu-e@kanazawa-city.ed.jp
Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/seinanbu-e/>

幼児児童生徒数 男子 327名 女子 315名 合計 642名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「金沢の伝統文化に触れる」ことを活動テーマとして、持続発展教育の実践に取り組んでいる。伝統文化に触れ、考えたことを伝える活動を通して、伝統文化との関わり方や、今後の伝統文化についてだけでなく、自分たちのより良い生活について考える力の育成を目標とした。

具体的には、①伝統文化に触れる活動、②自分たちの生活について考える活動、③考えたことをまとめ、伝え合う活動を行った。

①伝統文化に触れる活動

金沢ならではの和菓子と茶の湯の文化との関連を理解し、生活への理解を深めるため、正月に食べる和菓子に着目し、調べ学習を行った。この調べ学習を通して、他の地域では見られない金沢独自のものが幾つもあることに気づくことができた。また、今まで当たり前だと思っていたことが、他の場所では当たり前でないことや、以前はどの家庭でも行われていたことが、生活の変化から行われなくなっていることにも気付くことができた。

さらに、金沢の伝統文化として伝えられる和菓子づくりを職人マイスターの方に来ていただき、保護者の手伝い、支援も受けながら、体験することができた。職人さんの和菓子に対する思いや高い技術に触れ、和菓子作りの伝統文化としての価値やすばらしさに気付くことができた。

体験学習の後には、金沢にはどのような伝統工芸があるのかを調べ、自分が興味をもった伝統工芸について調べ学習を行った。調べ活動では、計画を立て、インターネットや資料、実際の工芸品を活用してまとめ、発表した。

②自分たちの生活について考える活動

国語科の学習と関連させて、校区がどんな街になってほしいか考えた。そのために、まずは今住んでいる自分の街はどんな街なのか見つめ直した。その後シニアクラブの方との交流会を行った。1回目はシニアクラブの方から過去の校区の様子を聞き取り、地域の人達が未来の街についてどんな願いを持っているのかを知ることができた。その願いを受けて、自分たちが今できることは何かを考え、テーマごとにグループに分かれ、ポスターにまとめた。よりよい校区にするために、「安全な街」「あいさつを通して、地域の人々と交流できる街」「みんなが笑顔になれる街にするために、まずは学校から変えよう」など、児童自身が感じた課題をもとに、まとめることができた。2回目の交流会ではポスターセッションを行い、児童が考える理想の西南部校区を提案し、未来の西南部について一緒に考えることができた。

③考えたことをまとめ、伝え合う活動

今までの学習で金沢について学んできたことをさらに深く学ぶため、金沢の歴史、偉人、地域の特色についてさらに調べ学習を行った。また、調べたことをプレゼンソフトを使ってまとめ、伝え合う時間を設けることで、自分の調べたことだけでなく友だちが調べたことを知り、金沢について深く知ることができた。調べた内容について、もっと知りたいことや疑問を解決するために、金沢の名所や旧跡・資料館などへ足を運んだ。実際にそこで生活する人たちと触れ合うことで、体験を伴った知識を得ることができた。その後、調べ、学んだことを再びプレゼンソフトを使ってまとめ、伝え合った。学年内だけでなく、5年生とも交流を行う場を設定することで、作成段階から相手意識を持ち、学習を進めることができた。



①の写真（職人マイスターの方に来ていただき、実際に伝統文化に触れる）



②の写真（ポスターセッション） ③の写真（金沢のおすすめマップ）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

のびゆく金沢、 石川県各市町村パンフレット、各市町村ホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD に関する事項を教育課程に明示するとともに、教科横断的な指導計画の立案に努めている。

総合的な学習の時間で学んだことをまとめたり、発信したりするときに他教科で学んだことを生かすようにしている。また、プレゼンソフトなど、ICT を積極的に活用し、コミュニケーション能力を系統的に育むよう、情報教育全体計画等に明示している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育課程や、年間指導計画を毎年見直すことで、的確に活動に取り組めるようにしている。また、研修報告会を行うことで、各自が学んだことを共有できる機会も設けている。

児童には、下の学年に学習成果を伝える活動により、自分がその学年になったときに行う学習について見通しを持たせるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD 担当者を決め、担当者を中心に年度当初に活動の質向上のための目標を設定し、定期的に振り返りを行っている。

総合的な学習の時間を中心に ESD に取り組もうとする意識が高まりつつあるが、全体で共通理解を図ることが難しい。研修会等を活用し、ESD に対する共通理解を図っていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

他校との研修会の際に、お互いの活動について確認している。また、市の児童の交流会で、総合的な学習の時間で学んだことを中心に発信している。(今年度は、大雪のためポスターの掲示のみとなり、掲示場所、期間をお知らせした)

発信するという目的があるため、準備段階から相手意識をもって学習に取り組むことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

インターネットを活用し、他の機関の情報を得ているが、ネットワークの形成には到っていない。

5年生や1年生の活動では、シニアクラブなど地域のコミュニティの協力を得ることができているが、今後コミュニティスクールとしての活動の一貫として、さらに協働できる方法を探っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

金沢市内の各校の取り組みを参考にしている。今後、課題にもよるが、他の地域の情報が必要になったときには、ユネスコスクールのネットワークを生かした情報収集を行いたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

アクティブラーニングを積極的に導入しようという意識が高まっている。5年生の活動では、地域の過去と未来について自分なりの考えを持つことができ、地域への愛着が強まった。全体的には、地域や金沢の課題に対して敏感になった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 教育課程の内容を確実に実施していく。
- ・ 他校との交流から、取り組み方を参考にする。
- ・ 校内で研修会を行い、ESD教育に対する理解を深めていく。